



六百番歌合十巻 承応元年版

藤原俊成判

昭和五十三年十二月、飯島書店にて

村井順

久松家百首歌合

題

春



元日宴  
絶寒  
着草  
賭射  
野趣



總者

左

恩詔

後京極

後三位藤原御内侍家

西三位下行左近衛權中將藤原御内侍家

後三位上藤原御内侍家

後四位下行左近衛權中將藤原御内侍家

阿智梨顯服

右

後三位藤原御内侍中將兼中宮權大將藤原御内侍家

卷之三

後三位藤原御内侍家

西三位下行右京權大將藤原御内侍家

後三位上藤原御内侍家

後三位下行右近衛權中將藤原御内侍家

右

蓬輝

川著

春

元日宴

女房

新正の年と云井よひを今まは人よき時と

右

信達

百事やまめ成りて有盡よ君うやく慶成りけども、左  
右方や去左奇一翁御故故左あや右あら高  
心事一翁御御業とこそ言ふくゆき判云  
あくび乃事とぞれをか一毒乃往うひとた  
り、おと下向れみせ候すがむことくわ

卷之二

某にあく細きんを守へ宴ののまゝ  
うー左房アあ門内アシモ事されと宴  
の奇あくとも歌くあしん祝ふともあくよ  
まねよほん

三書

右

主婦

立つ月年正月一とくよもよまえを終ひて、宴  
右勝  
経家ア  
ね後後ぬれ室をとくよまの候がくとくをだ  
右あやとあまののじうへとくよ一候白い

持てす左方門は既立文字耳おちまくをかゆ  
判云左題ひハぬあよまわのゆきごひ  
乃ハ乃夜心持シテナリモアシキ也右  
乃元日昇代ヌメリと奉シトカニハ寔也  
ハ意作シメと可也而佛ノハ室乃アシヤ  
第シ神人也れヒトクシテナリトカ  
矣入仰り冰室アリアルムク

二  
卷

卷之二

有家網

金の匁をもつてゐるが、其の城を

右  
家  
學

空齋

七

宣家納馬

主の氣を守る事  
は御心を知る事  
であるが故に  
おもてなしやめ

右  
第

卷之三

いと禮をほのめある方があの方代へまわる御  
右方や左方奇を以てすた左方や右方の事  
相難判云々あはれのうへ  
おもひ今之の事  
おもひ左の事はよきもの候  
おもひ去れ左と云ふ事ト左の事  
ゆらぎの拂はぬる事

五  
毒

九  
九

顯  
昭

立木乃まゆの有氣を以て涙の始タメトシ

卷

宋通

立身の爲めに萬事を爲す月の始よりとん  
右 寂蓮

やうへぢり但万葉集よりあくよのを合  
乃時ちたるのと建物とてはのえ続  
と万葉集の傳なる事とてあくよぢり  
と我か人より約もは集やくわくす  
あわく所が又は集の時までにすの庵を  
あらとあらわしとおもての合の時  
の例とてへりくら欣色へじきれ事わび  
わびとくら重ゆわくとぞとあり  
宣令には豊樂とすまわりとくらむや  
べの風体よとくとたるやくとくの

愚鈍ひとかけけはあくよのとくえ行  
まよふとくらむく豊明とくもりよ  
かくとくらむのとくらむのとくらむの  
よくとくらむのとくらむのとくらむの  
よくとくらむのとくらむのとくらむの  
初風とくらみけりへ元日とくとくあくよの  
宴枕花乃至とくとくあくよのとくらむの  
とくらむのとくらむのとくらむのとくらむの  
とくらむのとくらむのとくらむのとくらむの  
とくらむのとくらむのとくらむのとくらむの

卷

右 腹

画宗別

被りてはまく年ゆりくまばなを成さむにせ

名

中宮燈火文

いはりとお湯れりぬきよふし官人や是成さむん  
官室ヤと左前さりの室の耳よりぬけ方ヤと  
高き處にまわるとおれおもくらうのれ  
くまのう一物たりて判云左乃みくらはきこ  
まくまくうじゆうじゆうの事と無難せむ所  
くまとまくら左の傳よこすかくく竹

うれ喜と喜まとうたひてうれくはら未句  
もあくとも かづくをむと左前人乞い  
Pゆりきのとがまのまこと左乃かくまく  
のりくらや竹

七  
右

右

画宗別

左の腹はまく年ゆりくまばなを成さむにせ

右

中宮燈火文

あくの腹はまく年ゆりくまばなを成さむにせ  
左の腹はまく年ゆりくまばなを成さむにせ

偏曲折微歌

起句四百三

あらかじめにまづひま  
もひうて端計たすとれ批判じあす  
乃姿うほのうみをめきねじこひま  
奇うるか事じうと御みわうあくはう  
ゆ曲わ微め風情を不盡えかへれゆ  
段ねやくそ不致月心あすとて但有奇高  
れをうれゆくといふも一いげすと  
にまふやめんとくもれとまわよ  
海うるや端奥不ふ明所、

八

左松

集家新居

まとも花をわう山はけいの咲れ事はまよ

右

家謡相

まもくも雪をわう山はけいの咲れ事はまよ  
家すくすくあく冰室すくはく度方すく  
可年下にありて可年  
判云左吉れまきて  
もをよほよハぬぐくたのあくの御者  
難よくあぐくとも是がくはを地凡  
次古之處もこのみとくう婆宜よ御く  
わづかうひいはまよ地凡とやくつゝ

五  
通

左  
通

號船

まうしきむ山もあらゆも清り、城をとゆるや高の風

右

經家

風も吹く三けたは木屋も寂し、よひと秋ま  
右方門守主郎右衛門右守主北野判  
右馬頭守主郎右衛門右守主北野判  
えやと君の父の事とくに、かくも明ら  
今もうへんまでもとくに、若君  
うかうかうかをとまのあくで夕をとま

萬葉集  
乃岩のさくあへてまきやくわ乃木屋  
屋のじゆ木屋のじゆじゆのじゆのじゆのじゆ  
よきよきよきよきよきよきよきよきよきよき  
よきよきよきよきよきよきよきよきよきよき

ト書

左  
通

宣教明臣

萬葉集  
乃岩のさくあへてまきやくわ乃木屋

右

澄信明臣

萬葉集  
乃岩のさくあへてまきやくわ乃木屋

官方やかに理せんおきくとて御くわい  
キヤカニハシテ何事が官方ト云々指難  
判云々官方やかとてよ判者とあら御より  
このうやりとてりてりてりてりてりてりて  
及難候うとてりてりてりてりてりてりて  
よ給くとてりてりてりてりてりてりて  
あきくとてりてりてりてりてりて  
事とてりてりてりてりてりて  
やがんとてりてりてりてりて

十一箇

有家納

信宣

わきく紫雲とてりてりてりてりてりて  
名義よき見れ波とてりてりてりてりて  
官节とてりてりてりてりてりて  
ちけとてりてりてりてりてりて  
乃翁とてりてりてりてりてりて  
外うの翁とてりてりてりてりて  
きひうの翁とてりてりてりてりて

ゆく宣くさくへ約を紙くめれぬた方や首頭  
わぬ次方もうり往く勝じよとさきつわむ  
まくわ

十二番

右端

女房

うきに於すよしや次聞ひるくもまはすか妻篠の

右

麻蓮

梅の枝乃匂はりや来すんねあく一葉がわいがの  
右者未小宣くゆす判云じぬ首湯御走す  
湯ふきくゆりもまほくと防風片薙の月

ゆめの花をゆく一葉のわあわのとづくちう  
いとおもくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
乃まゆのくともやりゆくくやめく御内物のゆ  
あるくらもくらくらやまされあけかのじゆくく  
ひそくゆきとまれれお乃月御すりうへまくく  
竹つめれ

十三番

春水

右端

顯眼

ほくわく門を纏つま風よせまにもどりややねん

右

經家

あはりう頃より是日やけぬし若尔行よ水汲みたり  
左右たゞ雖も由トヤ判云左右乃風神達を同  
伴右乃長日終不可度矣左の海さりゆく

十空番

左ね

宣家明臣

水か水桶の後うづらま風もよどき池未だり、耶

右

中宮院大丈

激湯れ海の波の上所通語きとて波風に浴みよより  
右カヤム左翁経句よそ一左翁ト云右方ゆくの  
曉西首顯仲々可よとが海乃水の上所通語

左行乃ヨリアリムシテ防風ノリヒトニシタシ  
邊之上而海之系越又同判云左水乃向波立  
ウリムトキモル申シムシテ御身御手の御次  
御經句よそ一左翁ト云右方ゆく池乃面むし  
他力士欲有事ヒノハ海の事左翁ト云それより  
左高首ねうら船は秀逸左難よハ難拏申次  
じひうひ船すにてゆく

九番

左

多羅

あはりう頃より是日やけぬし若尔行よ水汲みたり  
左右たゞ雖も由トヤ判云左右乃風神達を同  
伴右乃長日終不可度矣左の海さりゆく

右 聞

まえの行はれて嵐よほしかとあままうけつ若下水  
宮方や云た乃前せと猶難な方や云右前  
嵐のま面（マカニ）に移すやどりて左の山判云  
左上をいとめしとゆめま左音（シテ）と左嵐（シマツ）ある  
まく行はりと左方やハ緋よ左嵐のすと  
まあへ去乃後も嵐とのうるさく發  
たよううるよ着水もそのひくよまくま  
ふるあると左方取一往きあく行つと  
行らへりきをきはまうりおれ下ねまく

之處

まもゆま

左 手

東家朝臣

其風ふ涼（リョウ）あやまとみかまくらのまのむとこう

年蓮

まわゆのゆのゆとゆあへてだり下りて今まゆゆ  
右方や云左手奇多羅難な方や云右手像のう  
とゆあへゆのそそんかわゆりよこりりや  
判右婆御邊よゆへておとゆ乃求意されよ  
とゆくほ山水漏りとゆあゆりあつよやね

ふ傳よむ風情ひかわ

亡畜

九

有家網

萬物之靈也。故人君之德，當以自然爲體，無爲爲用。無爲而無不爲，無爲而無不治。蓋無爲者，天地之大德也。萬物之靈，莫大乎人。人君之德，莫大乎天子。天子之德，莫大乎無爲。無爲者，萬物之靈也。萬物之靈，莫大乎人。人君之德，莫大乎天子。天子之德，莫大乎無爲。無爲者，萬物之靈也。

右  
附

家譜

是風よりはりの勢ひをあめゆうどりますか  
右方ムカシ左方ミツカシ前指難右方ムカシ右方ムカシ前指難判  
左上右ムカシ左下右ムカシ左上右ムカシ左下右ムカシ左上右ムカシ左下右ムカシ  
左上右ムカシ左下右ムカシ左上右ムカシ左下右ムカシ左上右ムカシ左下右ムカシ

東方の風は秋乃下よ秋乃ねも  
かくふるまく

十八

卷之三

人  
也  
不  
知  
其  
所  
之  
也

名

信定

まことに此と云ふ事は御内閣の事務に於ける事  
あつた事は御内閣の事務に於ける事  
見ゆる如く御内閣の事務に於ける事  
御内閣の事務に於ける事

左の竹子はもやいはまみくもくと癡乃義  
もやいしん右ちぬをもく風乃もく  
つうわくわくわくくゆく下の下の下の下の  
頬不被度身ゆくもく風神左ふくく  
ゆくと左もまの間がわくわくもくもくもく  
トる一色くわ

十九番

若草

左ね

顯昭

むきなれ縄の物をひまてはなれしむれり

右

證信相居

上句全六字は海乃わざり下根行縁よもゆう寫す  
右「云左奇絶美集よ後事は解手云  
ぬあをよめえかくみわくははきよへはよみぬ  
もさくらうりうらきふおきくこくよみへくか  
あくにあくろそむか耳小玉やく左方手云  
吉あとくははうそむか耳小玉やく左方手云  
左方手とくははうそむか耳小玉やく左方手云  
も常れかくははうそむか耳小玉やく左方手云  
ははうそむか耳小玉やく左方手云

きくと説をあらわすよに幾く名うちといふ  
から是れハ海より繩をくわへどちむるまゝや  
名う上匂は後や未免れゆり誠もうかくは  
左より元綱瑞眞不分明次

二十番

右ね

象家朝臣

立わくは壁もお壁と號ひてゐよけんやうま

右

中宮権大臣

えもうせきめのまのまと繩をくわへどちむるまゝ  
は右より傳うしらうりへりとくに判をめ首をく

二十一番

左

季經

口角頬わゑ外縫貞難奇申  
名小魚て筋もそ此森下まも年やくわやニ魚や筋  
右勝

信宣

あらぬあられ枯葉のあまをよそれもみのまのま  
右あらぬ右奇と指難左あらぬ左可腰拿  
きくわくや判をもその森れ下まのコトハや  
きくわくや判をもその森れ下まのコトハや  
葉のぬうまゆまよとれのよのよのよのよのよの

とつづいて句のくわくへとうゆめましふ字を六七字  
ち和音、ちひ例、始る難よ及する故称左房人  
構腰句行を構一の構腰句を它類や詩等  
三對歌可に主く構構行云事一志中ふ字  
与ト七字の離別をと純や乞來場為得之謂也  
いふそくふ吉久房

二十二番

左房

有家明居

長日豈折節を乃方す事もとみんと朝八萬間後

家澄

左房

危うき紹ひん今山里は古聞の是れ我心をも  
左房左一門を難之也 判左房節字を全  
與之右房山家乃者もる乃事所ハニシ  
御心わりくらべてはり後方ソシホモ其日  
壁とひづりがとう 一難門仍不絶焉負

二十三番

左房

宣家明居

とくくらべてはり難門ももひく二葉の是れ我右

右

経家

あれを爲すてこくとくはまかの難門はすき

左右丸向利之由名すとく判云じぬ前左不  
古今集乃縁あういと御事とくまひか  
トよめらか争比心を下つてくの繕芳ふ  
えどや追古の事ある川程乃御不被在也も

二千空番

左ね

女房

ちほう柄壁乃下れのとくわう拵室や相う原

右

年蓮

左ぬこそ月くせんれきくは縁よう萩乃や原  
左右丸向利之由名すとく判云じぬ前左不

事あらや行ようとんとく右縁よう萩の  
けくへたよ侵襲あくく傷病あく傷全次

干の番

賭射

左脇

女房

まよめれをひまよくかま筋あく下防持うば

中宮櫻空

夏あらうと海あらう桜うわいのとくよへわれ  
左方アム左奇る面をあくあく事や左ちや  
左奇う題く心中へ判云左奇る妻うおうひ  
心うくさくとけう様よが一

心うくさくとけう様よが一

二十六番

右

至家明后

心ありてねねり乃ま多びあ度よすひそ

右勝

対蓮

待ちひきあせらすもれと心よし候る雲の上人  
右方や云た可候匂ひけり也と左方や云右可  
モハ人を義ようみす判右方可上方の袖  
あく袖よからむけり右方と袖さりゆくも

二十七番

右勝

氣家朝后

左家合一ノ十七

舞うまわる舞とひきまとてうるみよしの袖の舞

右

経歌の

待ちまわる舞とひきまとてうるみよしの袖の舞  
右方や云左方可候匂ひけり也と左方や云右可  
判右方可候匂ひけり也と左方や云右可  
丁為右勝歌

二十八番

右勝

氣家朝后

百萬ふひよほくのれに舞うけりむじのれ

右

達信明后

立候のこうじをうりかへと持りてくにあつまひ事  
右方アガタ云左守す乃難な方アガタと右納アハラハス  
心様ハラフ子判シカツ右守立室碑アマニモト入本名アマニモト  
安アマニ仰アヒルん又右守爲持

二十九番

左ね

題貼

あくらう井アカルイていき城アキシマあくらう井アカルイ爲アハラ失アヒルせよひ

信定

持アカルえアカルにアカルいアカルもアカルのアカル難アハラ神アシマよアカル耶アカル  
右方アガタ云左守シカツ持難アハラ右方アガタ云左守シカツ持

春アカルはアカルのアカル道アカルのアカルいアカルはアカル九重アカル  
此アカル乃アカル難アハラのアカルよアカルくアカル次アカル而アカル判シカツ  
右アカル持アカル難アハラのアカルとアカル去アカル九重アカルとアカル持アカル  
あアカルしアカルてアカルもアカル失アハラもアカル失アハラ持アカル

三十番

左ね

題家

百者アカルやアカルて右庭アカル乃アカル持アカルじアカルよアカルかアカルまアカルにアカルあアカル左

家達

持アカルえアカル難アハラ井アカルよアカルはアカルまアカルにアカルあアカル人アカル

右方アガタ云左守シカツ毎年アカル事アカルとアカルよアカルといアカルん

ノソノ乃源云毎年八月半祭を主とす  
カタハ也乃方ヤム右奇ニテ翁翁難判左様四  
之也ウスノ右又余多シシテ御用アリムノ  
キホト時ノ相儀ルトカナリ也ノ乃モ主

一  
卷

九  
ね

竹也

顯微

わくまじめの  
金へみうち乃翁もじよたんか  
ひ

名

宋蓮

あやめはじて日ひあらがみ  
八重路やまくら御生身

右方門の方をうらぬる處へとまくらに  
ゆきのあはれあはれめうとうりとつづる魂へあり陳云  
たゞめりぬまへ二極より方葉集ふとん  
もありあはれのくえ城の流百首より仰問つてたゞ  
もひよどり左方門を右家経ふくわの様  
林へお野ぐらわよわゑ人をよや右凍云ふの口づ  
きありとろもと聖とくもくよめりとくや 列云  
石斧あはれぬれむりたゞくけ二極とも  
ますと一松をじねよとくわたりとひ  
あらと云達模うあふと方葉集よへとく相

焉有翁号曰竹取之翁者乎去月查書至  
望忽值董襄公九子百媚爭嬈花容爭比  
略之不覺心醉之以海壁移乃可小憇也而  
得之不可已也於是以經方葉集之二病院  
亦一病方人也之枝葉集之餘頗不甚也  
故假名之付其也絕不煩之疏也于今雖傳之  
左行之雅人之說下為揚南派師時之說以同  
亦通件前并九女子才中之竹掌之  
絅計也尤煩之定之疏也久之欲之之多二  
所よし奈ハ多行ハ吾道之統也之多ハ能也主  
約也

陽春頃もあらじとけざり小野翁上言  
主也たらしもど是れくゆうりんもうちゆう  
ゆくいあけくもくも逆行にてとひす乃風  
候とめうするきよねもしとるやういふ  
姿詞不可度幾然若水の常也下もう千と  
乃く約半て竹も拂へ難えし乍倒乃わゆ  
約也

古

中宮稚全

まわるうらうりうらうんま云野越のまくせりうまくまうら  
古方ヤ云左奇野越乃心もゆふゆうぬ  
時乃頃乃もて様よみとれどくや左除  
え壁越れぬゆめわくわく人財高打事一あくよ  
もゆく左方ヤ云右奇淮幼後日めくゆ  
たとゆ野越乃心乃一わききう判右奇猪  
宜ニやうじゆくゆくゆととくゆくゆくゆ  
まく乃頃不處多欲者あくをかくのわくがん  
えくゆくゆくとゆくとゆくとゆくとゆくとゆくと

ひそく左ト右宣ニよむくゆくゆくゆくゆ

王書

左

有家相臣

しらしもくのゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ

古

経家

わくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ

古

有家相臣

とゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ

古

経家

ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ

古

有家相臣

ちくまを身につけてゐる様子にひれ  
まの日向はとせんとく秀吉さ  
なりの間に下りて下りて宣ひやめん  
お秀吉よりく猪飼の手乃通し  
名主の駕籠を左腰にひく

卷

右也

兼家相馬

おれもよきのまのめをひきまへ

右

三佐野

はれす日にかくはせとされしまで

ああくらむ左尾あわくわくわくのまのめをひく  
望遠よもすゆゆきゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
野遊よもすゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく  
き日教えす一萬れ左尾難いぐくらむよ  
圓あがく左方一萬れ左尾難いぐくらむよ  
ゆくや判官はくへたおれかくへたおれかくへた

卷

右也

女房

おれもよきのまのめをひきまへ

古

信宣

あまつてこはるのせんへとあらわすたち人内ぢしとき  
名をもつて感氣事にてておほに方アト云ふ者三人  
おそれねやうや壁壁うち風く海くひづれゆ  
をもつてよき難よへあら称とひあす  
判云后前へ翁成彦乃よりしてすと宣く行  
あへて古可ちんきんをとおまれ候の所と  
つらじはわくへたまら人をとおまれ候の所と  
よあくは壁へとおのづかくよりて候を知り  
歎きうとくとくへ丁翁為て行

大富

たね

喜慶

みまえめめめめめめめめめめめめめめめめめめ

家達

あまくらそことくらそくらそくらそくらそくらそくら  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
よおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
あおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお

蒙古文

蒙古文

蒙古文

蒙古文



蒙古文

